

授業概要

音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、コード伴奏法を学ぶクラス授業（ML 教室 45 分）と経験の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスン（45 分）を並行して行う。ピアノの演奏法、コードによる弾き歌いや音楽表現のための基礎技能を指導するとともに、保育実習、保育実践にむけ、身体表現を伴う歌唱曲、手遊び曲を指導する。

授業計画

第 1 回	(クラス授業) ガイダンス 表現としての音楽の位置づけ、鍵盤と音階の関係 (個人レッスン) 各学生のレベルに対応した練習教材の決定
第 2 回	(クラス授業)、リズム、読譜ワーク (個人レッスン) 練習教材の配布、ド～ソの全調奏 「ひげじいさん」Cメジャー
第 3 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な読譜演習 (個人レッスン) 「ひげじいさん」Fメジャー
第 4 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要なリズム演習 (学生の進度に応じた個人レッスン)
第 5 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な基礎的な音楽理論、リズム、拍子 (個人レッスン)
第 6 回	(クラス授業) リズム演習 (個人レッスン)
第 7 回	(クラス授業) コードネームの基礎 (個人レッスン)
第 8 回	(クラス授業) I V の和音のコードネームと歌唱曲の伴奏演習 (個人レッスン)
第 9 回	(クラス授業) 中間実技テスト、発声法
第 10 回	(クラス授業) I V の和音のコードネームと歌唱曲の弾き歌い (個人レッスン)
第 11 回	(クラス授業) ちょうちょう I, V 全調課題について (個人レッスン)
第 12 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、テキストの歌唱曲の演習 (個人レッスン)
第 13 回	(クラス授業) ちょうちょう I, V 全調課題の授業内テスト (個人レッスン)
第 14 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、生活の歌の演習 (個人レッスン)
第 15 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、テキストの歌唱曲の演習 (個人レッスン)
第 16 回	期末自由曲実技試験

到達目標

音楽活動を通して、感性豊かな表現が、子どもたちと楽しくできるような保育者、教員をめざし、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。音楽に関する基礎知識や理論を学び、声、ピアノを用いた音楽表現のための基礎技能を習得する。

履修上の注意

遅刻 3 回で欠席 1 回となる。合同個人レッスンどちらかを休むと 1 回欠席となる。授業用の電子ピアノを丁寧に扱い、音楽室使用の諸注意を守ること。欠席すると、課題についていけなくなるため、全出席を前提とする。特に貴重な個人レッスンは欠席することのないように。幼稚園実習Ⅰ派遣のための必修科目であり、卒業、幼稚園、小学校教諭、保育士免許のための必修、重要科目である。

予習復習

短時間の個人レッスンの指導を有効的にするため、毎日必ずピアノの練習を習慣づけること。個人レッスンは練習をして参加することが条件で、練習していない状態での参加は、欠席扱いとなる場合がある。特に初心者は 1 年間で実習に必要な弾き歌いのための基礎を学ぶので、相当な覚悟で練習に取り組んでほしい。

評価方法

練習状況、授業態度(25%)実技試験(40%)全調課題(20%)提出物(5%)リズム課題(5%)を総合して評価する

テキスト

合同授業用

- 教科書名：『保育者のためのピアノの基礎』
- 著者名：井口 太・笠井 かほる
- 出版社名：朝日出版

個人レッスン使用

- 教科書名：『大人のためのピアノ教本』Ⅰ～Ⅴ巻
 - 出版社名：ドレミ楽譜
- 使用する巻数は各学生の進度に応じ授業内で決定する。他プリント配布。

授業概要

クラス授業（45分）では保育・教育現場で使用度の高い歌唱曲の歌唱指導、コードによる伴奏法、毎月の歌として身体表現を伴う曲、手遊び曲を指導する。コード伴奏として「ぶんぶんぶん」「きらきらぼし」の全調奏はI、IV、V、V₇の伴奏課題として必修である。記譜法を学び伴奏譜が書けるようにする。

音楽Ⅰと同様、レベルに応じたピアノの個人レッスン（45分）と合同授業を交互に行う授業形態をとる。

個人レッスンでは弾き歌いの曲の学びと音楽実技Ⅰの基礎をさらに深め保育・教育現場で役立つ音楽実技の能力を高める。

授業計画

第1回	(クラス授業) ガイダンス,夏休み課題(実習用の曲)の演習	(個人レッスン)
第2回	(クラス授業) 幼児の発達と音楽、手遊び、わらべうた、7コード	(個人レッスン)
第3回	(クラス授業) 「ぶんぶんぶん」の全調課題演習	(個人レッスン)
第4回	(クラス授業) 夏休み課題「ぶんぶんぶん」の全調課題テスト	(個人レッスン)
第5回	(クラス授業) 「動き」を伴う音楽活動	(個人レッスン)
第6回	(クラス授業) コードネーム(m)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第7回	中間実技テスト、手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法	
第8回	(クラス授業) 手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法(課題提出)	(個人レッスン)
第9回	(クラス授業) クリスマスソングの演習	(個人レッスン)
第10回	(クラス授業) クリスマスソングの演習	
第11回	(クラス授業) I IV V V ₇ の和音による伴奏「きらきら星」全調課題の演習	(個人レッスン)
第12回	(クラス授業) 「きらきら星」全調課題のテスト	(個人レッスン)
第13回	(クラス授業) コードネーム(m)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第14回	(クラス授業) コードネーム(aug.dim)による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第15回	(クラス授業) I IV V V ₇ の和音による伴奏、歌唱曲への応用	(個人レッスン)
第16回	期末実技試験	

到達目標

子どもたちとの音楽活動を通し、感性豊かな表現をめざす「音楽Ⅰ」を更に深めることを目的とする。保育実習や保育現場での実践に対応できるよう、使用度の高い歌唱曲の歌唱、伴奏を通して音楽的で感性豊かな表現力を深める。演習にとどまらず、教材研究を深め、どのように各々の教材を保育のさまざまな活動に広げていくかを考える。

履修上の注意

遅刻3回で欠席1回となる。合同、個人レッスンいずれかを休むと1回分の欠席となる。クラス授業はM.L教室で行う。個人レッスンはグループ全員で受講すること。個人レッスンでは夏休み宿題の実習用の曲の合格、合同授業では「ぶんぶんぶん」I V V₇「きらきらぼし」I IV V V₇の伴奏の全調課題の合格を必修とする。

幼稚園免許希望の学生は教育実習Ⅱの派遣のための条件科目である。

予習復習

貴重な個人レッスンの一人あたりの時間は短いので、必ず練習をしてきた上でレッスンを受けること。就職や実習で必要とされる演奏力をつけるため毎日の練習を習慣づけること。

評価方法

授業の参加状況・授業態度(25%)、全調課題(30%)実技テスト(40%)、提出物(5%)を総合して評価する。

テキスト

『幼児の音楽教育—音楽的表現の指導—』(朝日出版) ISBN978-4-255-15627-9、プリント配布
『大人のためのピアノ教本』(ドレミ楽譜)→音楽実技Ⅰから継続、進度に応じ教材を授業内で決定する。